

令和3(2021)年 10 月 期
名古屋市立大学大学院医学研究科
研 究 生 募 集 要 項

研究生の募集は、4月入学・10月入学の年2回実施します。この募集要項は、10月入学用です。

名古屋市立大学大学院アドミッション・ポリシー

名古屋市立大学は、「全ての市民が誇りに思う・愛着の持てる大学をめざす」ことを大学の基本的理念として掲げ、大学院教育では、大学院生への研究指導は研究活動の活性化の一環であるとの認識に基づき、高度な専門性と学際的視点を備えた研究者及び職業人を育成することを目標としている。

本大学院では、これらの理念や目標のもとに、基本的な専門知識と技術を持ち、高度な専門性と国内外で活躍する意欲と適性を備えた、多様な能力や経歴を有する人材を広く求めている。

1 募集人員 若干名

2 出願資格

- (1) 医学、歯学、薬学又は獣医学（薬学、獣医学については修業年限6年に限る。）の課程を修了し、大学を卒業した者又は令和3年9月までに卒業見込みの者
- (2) 外国において、学校教育における18年の課程（医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。）を修了した者又は令和3年9月までに修了見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程（医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。）を修了した者又は令和3年9月までに修了見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程（医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。）を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者又は令和3年9月までに修了見込みの者
- (5) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が5年以上である課程（医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。）を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって(4)の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者又は令和3年9月までに授与見込みの者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
 - ア 防衛省設置法（昭和29年法律第164号）による防衛医科大学校を卒業した者及び令和3年9月までに卒業見込みの者
 - イ 修士課程を修了した者及び修士の学位の授与を受けることのできる者並びに前期2年及び後期3年の課程の区分を設けない博士課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者で、医学研究科において、大学の医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めたもの
 - ウ 大学（医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を除く。）を卒業し、又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、医学研究科において、当該研究の成果等により、大学の医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めたもの
- (7) 大学（医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程に限る。）に4年以上在学し、又は外国において学校教育における16年の課程（医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。）を修了し、医学研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認めた者
- (8) 医学研究科において、個別の入学資格審査により、(1)に定める者と同等以上の学力があると認めた者で、令和3年9月30日までに24歳に達するもの

(注1) 志願者は出願に先立ち、事前に指導を希望する教員に相談してください。

(注2) 研究テーマによっては、医師免許を必要とする科目もあるので、事前に指導を希望する教員に相談してください。

3 資格審査（出願資格(6)イ、ウ、(7)及び(8)により出願する場合）

(1) 資格審査申請期間

令和3年7月1日（木）～ 7月8日（木）〔必着〕

下記(2)の書類を出願受付場所に直接提出するか、封筒の表に「医学研究科研究生（10月入学）資格審査書類在中」と朱書し、書留速達で郵送してください。なお、郵送先は、下記「出願受付場所・入学等に関する照会先」を参照してください。

※国外から申請する場合は、必ず日本国内在住の代理人が出願手続を行ってください。この場合、本学からの通知も代理人あてに行います。（外国からの申請による出願は受け付けませんので注意してください。）

(2) 申請書類

「4 出願書類等」の(注1)～(注5)を参照

※個別資格審査願、履歴書、業績書は下記 URL からダウンロードすることができます。
本学ウェブサイト <https://www.nagoya-cu.ac.jp/admissions/graduate/med/index.html>

(3) 審査結果

審査後、速やかに通知します。

出願受付場所・入学等に関する照会先

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地
名古屋市立大学学生課入試係 医学研究科入試担当
電話 052(853)8020
FAX 052(841)7428
E-mail shingaku@adm.nagoya-cu.ac.jp

4 出願期間

令和3年8月3日（火）～8月10日（火）〔必着〕

窓口受付時間 9:00～17:00（土日祝日 及び 12:00～13:00を除く。）

必要事項を記入した出願書類提出用封筒の表紙（本学指定）を角型2号の封筒（ご自身でご準備ください）に貼り付け、その封筒に出願書類等を入れ、出願受付場所に直接提出するか、又は書留速達で郵送してください。期限までに到着しなかった場合は受理しません。（期間内消印有効ではないので注意してください。）

国外から出願する場合は、必ず日本国内在住の代理人が出願手続を行ってください。国外から郵送による出願は認められません。本学からの通知も代理人あてに行います。

出願書類を受理したときは、受験票と受験案内を後日送付します。

8月18日（水）を過ぎても届かない場合は、〔学生課入試係 医学研究科入試担当（2ページ）〕に照会してください。

5 出願書類等

書 類 等	摘 要
1 入 学 願 書 受 験 票	〔本学所定用紙使用〕 ・写真は、上半身、無帽、正面向き、背景なし、カラー、出願前3か月以内に撮影したものを貼ってください。（縦4cm×横3cm） ・受信場所は、確実に連絡のとれるところを記入してください。

2	履 歴 書	<p>[本学所定用紙使用]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学歴は、大学入学から記入してください。 ・ 職歴があれば記入してください。 ・ 出願資格(2)、(3)により出願する者、(5)、(6)ウ及び(7)により出願する者で、外国において学校教育における16年の課程を修了したものは、初等教育(小学校入学)から高等教育(大学相当)まで、修了した学校教育をすべて記入してください。 ・ 出願資格(8)により出願する者は、中学卒業以後から記入してください。
3	成 績 証 明 書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在籍又は出身大学が作成したもの 但し、本学医学部卒業(見込)者は、提出する必要はありません。 ・ 出願資格(2)、(3)により出願する者、(5)、(6)ウ及び(7)により出願する者で、外国において学校教育における16年の課程を修了したものは、外国において修了した高等教育機関(大学相当)の成績証明書を提出してください。 ・ コピーは不可。※注7 ・ 日本語又は英語により作成するか、日本語又は英語による訳文を添付してください。証明書に直接書き込まないでください。
4	卒 業 証 明 書 (卒業見込証明書)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在籍又は出身大学が作成したもの 但し、本学医学部卒業(見込)者は、提出する必要はありません。 ・ 出願資格(2)、(3)により出願する者、(5)、(6)ウ及び(7)により出願する者で、外国において学校教育における16年の課程を修了したものは、外国において修了した高等教育機関(大学相当)の卒業証明書を提出してください。 ・ コピーは不可。※注7 ・ 日本語又は英語により作成するか、日本語又は英語による訳文を添付してください。証明書に直接書き込まないでください。
5	住 民 票 (外国籍の者のみ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国籍の者で在留資格がある者は提出してください。 ・ 在留資格期間が短期の者はパスポートに押された日本の査証の写しを提出してください。 ・ 国外在住者が出願する場合は、パスポートの写しを提出してください。
6	入学検定料等 (10,174円)	<p>【日本国内から入学検定料等を納入する場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入学検定料等は、振込依頼書(本学所定のもの)を使用し、必要事項を記入のうえ、10,174円(入学検定料9,800円+受験票等送付のための速達郵便料金374円)を添えて銀行などで振り込んでください。(ゆうちょ銀行では取り扱いません。また、ATM等は使わず必ず窓口で振り込んでください。) ・ 振込手数料は志願者本人の負担となります。 ・ 銀行などから受け取った「検定料納付証明書(B票)」を他の出願書類と一緒に提出してください。 (「振込金(兼手数料)受領書(A票)」は志願者が保管するものなので注意してください。) ・ 原則として既納の入学検定料は返還しません。但し、以下の場合は、納入された入学検定料を返還しますので、本学ウェブサイトを確認してください。不明な点がありましたら、[学生課入試係 医学研究科入試担当(2ページ)]へお問合せください。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 二重で振込みをした場合 ・ 入学検定料等の振込後、出願書類を提出しなかった場合(出願が受理されなかった場合も含む)

		<p>【日本国外から入学検定料等を納入する場合】 出願者氏名により電信送金で出願期間締切日の令和3年8月11日（水）までに下記の口座へ到着するように送金してください。</p> <p>また、銀行で発行された受領書（外国送金証明書）のコピーを他の出願書類とともに提出してください。</p> <p>【振込方法】 送金種別：電信送金 支払方法：銀行振込 送金額：10,174円+手数料 ※ ※送金時に必要な手数料（振込銀行手数料〈海外銀行分〉と支払銀行手数料〈日本国内銀行分〉の両方。途中経由銀行の手数料がかかる場合もあり。）は、すべて志願者が負担してください。 ※必ず日本円で送金してください。日本円以外の外貨で送金した場合、出願を認めません。</p> <p>【振込口座】 銀行名：三菱UFJ銀行（The Bank of Mitsubishi UFJ, Ltd.）支店名：滝子支店（Takiko Branch） 口座番号：1232518 受取人：公立大学法人名古屋市立大学（Nagoya City University） 受取人住所：〒467-8601 愛知県名古屋市長区瑞穂区瑞穂町字川澄1 （1 Kawasumi, Mizuho-cho, Mizuho-ku, Nagoya-shi, Aichi 467-8601 JAPAN） スウィフトコード：BOTKJPJT</p>
7	あて名用シール	<p>【本学所定用紙使用】 返信先を明記してください。受験票等の送付及び合否の通知に使用しますので、確実に受領できる住所・氏名を記入してください。</p>
8	出願書類提出用封筒	<p>出願書類提出用封筒の表紙〈本学所定〉に必要事項を記入してください。自身で用意した角型2号の封筒に表紙を貼り付け、出願書類を封入し、学生課入試係宛て郵送してください。</p>

- (注1) 出願資格(6)のイにより出願する者
→個別資格審査願(所定用紙)、履歴書(所定用紙)、大学院の修了証明書及び成績証明書を提出してください。
- (注2) 出願資格(6)のウにより出願する者
→個別資格審査願(所定用紙)、履歴書(所定用紙)、卒業証明書及び成績証明書、研究に従事した証明書、業績書(所定用紙)を提出してください。
- (注3) 出願資格(7)の「大学(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程に限る。)に4年以上在学した者」により出願する者
→個別資格審査願(所定用紙)、履歴書(所定用紙)、成績証明書、大学の履修規程、授業シラバスを提出してください。
- (注4) 出願資格(7)の「外国において学校教育における16年の課程(医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)を修了した者」により出願する者
→個別資格審査願(所定用紙)、履歴書(所定用紙)、卒業証明書及び成績証明書を提出してください。
- (注5) 出願資格(8)により出願する者

→個別資格審査願(所定用紙)、履歴書(所定用紙)、中学以後の学校の卒業がある場合はその証明書(高校、短大、各種学校等)を提出してください。

(注6) 個別資格審査申請の際に、出願に必要な書類を既に提出している者は、出願の際に再度提出する必要はありません。

(注7) 外国の高等教育機関で発行された卒業証明書・成績証明書等のうち、再発行ができないものについては、コピーでの提出を認めます。なお、コピーを提出した場合は、入学手続きの際に原本を確認します。

(注8) 成績証明書等に記載された氏名と現在の氏名が異なっている者は、戸籍抄本など改氏名したことを証明できる書類をあわせて提出してください。

(注9) 履歴書、受験許可書は、下記 URL からダウンロードすることができます。

本学ウェブサイト <https://www.nagoya-cu.ac.jp/admissions/graduate/med/index.html>

6 障害等を有する入学志願者との事前相談

障害等がある入学志願者で、受験上及び修学上の配慮を必要とする方は、出願前までに必ず〔学生課医学研究科入試担当(2ページ)〕まで申し出てください。

7 入学者選抜方法

書類選考(面接を課することがあります。面接を行う場合は、日時を別途通知します。)

8 入学許可者発表

令和3年9月6日(月) 14:00

名古屋市立大学医学研究科研究棟1階掲示板に入学許可者を発表するとともに、本人(国外の場合は代理人)あて可否を通知します。(合格発表日から1週間経っても通知が届かない場合は、〔学生課入試係 医学研究科入試担当(2ページ)〕に問い合わせてください。)

9 入学手続

(1) 手続期間(予定)

令和3年9月中旬

具体的な日時は合格通知に併せてお知らせします。

(2) 手続方法

合格通知に合わせて詳細を通知します。

手続期間を経過した場合は、入学許可が取り消されるので注意してください。

(3) 入学手続時に必要な経費

ア 入学料	69,600円(名古屋市住民等)
	99,600円(その他の者)
イ 学生教育研究災害傷害保険料	1,000円

(注1) 入学料は入学手続時に納入してください。既納の納付金は返還しません。

(注2) 名古屋市住民等とは、①入学者 又は ②配偶者若しくは1親等の親族が、入学の日において同日の前から引き続き1年以上の期間、名古屋市内に住所を有していたことを住民票により証明できる者を指します。

10 授業料

半期額 178,200円 (年額 356,400円)

(注1) 在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定後の授業料を適用します。

(注2) 必要な諸経費について別途徴収することがあります。

11 注意事項

- (1) 出願書類等が不備の場合は受理しません。
- (2) 出願書類等に虚偽の記載をした者は、入学後であっても入学を取り消すことがあります。
- (3) 出願書類等は返還しません。
- (4) 受信場所を変更した場合は、直ちに〔学生課入試係 医学研究科入試担当(2ページ)〕に連絡してください。
- (5) 外国人が入国許可の詳細について問い合わせる場合は、下記へ照会してください。

外国人在留総合インフォメーションセンター(名古屋入国管理局)

名古屋市港区正保町5-18(あおなみ線「名古屋競馬場前」駅から徒歩1分)

電話 052-559-2151・2152

緊急時における大学からのお知らせについて

災害の発生時など、緊急時の連絡及び本募集要項の内容から変更する必要がある場合には、本学ウェブサイトにより周知しますので、受験前は特に注意してください。

また、受験者本人へ直接連絡する場合がありますので、出願書類には必ず連絡のとれる連絡先を書くようにしてください。

○本学ウェブサイト <https://www.nagoya-cu.ac.jp/>

個人情報の取扱い

個人情報については、名古屋市個人情報保護条例に基づいて、次のとおり取り扱います。

(1) 個人情報の利用

ア 出願書類等に記載された氏名、住所その他の個人情報については、入学者選抜業務(出願登録処理、選抜実施、合格発表、入学手続等)を行うために使用します。

イ 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報を今後の入学者選抜及び大学院教育の改善のための調査研究や学術研究の資料として利用する場合があります。(調査研究の発表に際しては、個人が特定できない形で行います。)

ウ 入学者の個人情報については、教務関係(学籍管理、修学指導等)、学生支援関係(健康管理、授業料免除・奨学金申請、就職支援等)、授業料徴収に関する業務を行うために利用します。

(2) 業者への委託

上記(1)の各業務での利用に当たっては、個人情報の適切な取扱いに関する契約を締結した上で、一部の業務を外部の事業者へ委託することがあります。

敷地内全面禁煙について

本学は、敷地内禁煙を実施しており、学生の皆さんにもこの方針を遵守していただくとともに、大学周辺道路での禁煙にもご協力をいただいています。

専門分野別研究内容一覧

【生体機能・構造医学専攻】

講座名	専門分野名	研究内容
	担当教員名	
基礎医学	統合解剖学	(1) 筋萎縮性側索硬化症(ALS)を初めとする神経変性疾患の病態生理に、ニューロン・グリア相関の破綻が与える分子原理を解明する。 (2) 神経免疫系の恒常性維持の分子神経生物学的研究と、その維持機構の障害が、自閉症等の発達障害を惹起する分子病理の解明。
	植木孝俊教授	
	機能組織学	感覚器と脳の両方面でシームレスな研究を展開 (1) 聴覚・味覚受容に関する遺伝子の同定と遺伝子改変動物を用いた機能解析 (2) 成体脳海馬の新生神経に関する形態学的・分子生物学的・生理学的研究
	鶴川眞也教授	
	神経生化学	(1) 危険因子ApoE4、脳内脂質代謝変動、ならびに糖尿病が関与するアルツハイマー病分子病態解明 (2) アルツハイマー病発症機構におけるエクソソームの役割の解明 (3) 歯科疾患とアルツハイマー病分子病態の研究 (4) ATBF1とアルツハイマー病分子病態の関連
	道川 誠教授	
	細胞生化学	繊毛は細胞外に突出したアンテナ状の細胞小器官で、様々な疾患との関わりが知られている。我々の研究室では以下の研究テーマに焦点を当てている。(1)シグナル伝達経路による繊毛形成の制御機序の解明 (2)基底小体トッキングの制御機序の解明 (3)繊毛形態と悪性腫瘍の関連性
	加藤洋一教授	
	細胞生理学	平滑筋およびその周辺細胞に関する機能的、形態学的研究 (1) 平滑筋自発活動の発生伝播機構 (2) 平滑筋機能の神経性、液性制御機構 (3) 内臓組織における微小血管の機能特性 主要実験方法:電気生理学的手法、細胞内カルシウムイメージング法および蛍光免疫染色法
橋谷 光教授		
脳神経生理学	発育期の外部環境刺激(豊かな環境、うまい摂取)による情動形成メカニズムの解明、中脳皮質辺縁多巴ミン神経系と行動制御メカニズムの解明、障害モデル動物(脳室周囲白質軟化症、脳内出血)を用いた障害脳機能の再生・再建メカニズムの解明、ES細胞・iPS細胞から神経系細胞(ドーパミン神経、オリゴデンドロサイト)への分化誘導と細胞移植による機能再建	
飛田秀樹教授		
病態外科学	消化器外科学	臨床応用を目的とした消化器癌の増殖、浸潤、転移、血管新生に関する分子生物学的メカニズムの解明。癌と炎症。栄養治療による炎症反応の修飾機構の解明。内視鏡手術の手術術式の開発。癌の免疫・化学療法。周術期外科感染症。
	瀧口 修司教授	
	腫瘍・免疫外科学	胸腔鏡手術の術式開発に関する研究、局所進行肺癌に対する胸腔鏡手術による低侵襲治療の開発に関する研究、周術期患者QOLの向上に関する研究、胸腔鏡手術の教育と医療安全に関する研究、肺癌と胸腺上皮性腫瘍の遺伝子異常に関する研究、小児悪性腫瘍と遺伝子異常
	中西良一教授	
	腎・泌尿器科学	尿路結石の分子機構の解明、内視鏡外科、前立腺がんの病態と骨転移機構、がん選択的温熱療法、男子不妊症の病態究明と補助生殖技術、宇宙医学(特に尿路結石と生殖)、泌尿器科手術術式の開発、泌尿器分子生物学、先天性疾患の発生機序、遺伝子治療の基礎的研究(特に尿路結石、男性不妊、膀胱がん)、排尿メカニズムの解明、泌尿器疾患のエピゲノム制御
	安井孝周教授	
	心臓血管外科学	(未定)
	(未定)	
	乳腺外科学	①乳癌のホルモン依存性増殖機構の解明に関する研究、②ホルモン療法効果予測因子に関する研究、③トリプルネガティブ乳癌に関する研究、④乳癌の予後予測因子に関する研究
遠山 竜也教授		
小児泌尿器科学	泌尿器科学のうち、特に小児・先天異常疾患の病態解明・診断・治療に関する基礎および臨床研究を展開 (1) 腎・尿路系:腎発生、ES/iPS細胞を用いた腎再生、CAKUT発症メカニズム、水腎症、VURにおける組織・遺伝子変化 (2) 性腺・生殖器:性分化、精巣発生、精巣下降、精子形成、外生殖器形成に関する分子生物学的メカニズムの解明、精子幹細胞の分化・発生メカニズム、内分泌学的環境との相互作用	
林 祐太郎		
感覚器・形成医学	視覚科学	糖尿病網膜症の病態診断と治療、加齢黄斑変性の病態解明と治療、網膜微小循環、網膜硝子体ドラッグデリバリー、網膜硝子体マイクロサージェリー
	小椋祐一郎教授	
	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1. 感音難聴(DFNB93などの遺伝性難聴、カルシウムチャンネル病、auditory neuropathyなど)の病態解明と内耳カルシウムイオンの調節機構に着目した新規治療の開発 2. ウイルス性顔面神経麻痺のモデル動物を用いた顔面神経麻痺の分子機構の解明と新たな画像診断、ステロイドの効率的投与方法、安全な手術法の確立 3. めまい・平衡障害に対する新たな診断機器の開発とノイズ前庭電気刺激を利用した新規治療、新たな前庭リハビリテーションの開発 4. 頭頸部がんの免疫機構の解明と腫瘍溶解ウイルスによる新規治療の開発、生活習慣の罹患・予後への影響の解析 5. 発声障害の新たな客観的評価法の開発、痙攣性発声障害の病態解明と新たな喉頭形成術による治療の開発
	岩崎 真一	
	加齢・環境皮膚科学	難治性皮膚疾患に対する光線療法の機序解析と開発、樹状細胞によるアレルギー疾患・自己免疫疾患・悪性腫瘍の治療、環境因子(タバコと紫外線)による皮膚老化の機序解析、皮膚免疫制御による末梢性トランスの誘導
	森田明理教授	
	口腔外科学	顎骨再生に関する基礎的・臨床的研究、口腔前癌病変の治療に関する基礎的・臨床的研究、インプラントによる治療法の開発、顎骨再建と口腔機能回復に関する基礎的・臨床的研究、口腔ケアに関する研究
	渋谷恭之教授	
	形成外科学	創傷治癒遅延とその救済、脂肪幹細胞による軟部組織再建、リンパ浮腫とリンパ管再生
鳥山 和宏教授		

講座名	専門分野名	研究内容
	担当教員名	
病態医科学	実験病態病理学	前立腺癌化学予防に関する実験病理学的研究、前立腺癌、乳癌、婦人科腫瘍、消化器疾患の発育・進展に関わる臨床病理学的解析、ギャップ結合タンパクから見た実験的肝発がん研究、健康食品を含む環境物質の発癌修飾作用およびその分子生物学的機構解明に関する研究、ヒト疾患モデル動物を用いた実験的腫瘍病理学
	高橋 智教授	
	臨床病態病理学	病理診断は”最終診断”としてしばしば患者治療に決定的な影響を及ぼすが、われわれの教室では診断(人体)病理学に研究の基盤を置く。造血器、消化器、呼吸器、軟部組織、唾液腺、胸腺などの腫瘍および反応性病変を主な研究対象とし、病態発生機序の分子レベルでの解明および新たな疾患単位・概念の確立をめざす。また診断、最適治療法の選択、予後推定などに重要な分子マーカーを同定する。
	稲垣 宏教授	
	病態モデル医学	ゲノム編集技術による遺伝子改変動物の作製と表現型解析を通じて、以下のテーマに興味を持って研究を進めています。(1)多因子疾患モデルにおける疾患感受性遺伝子の同定とその疾患形成に至る機序(2)初期胚から膵内分泌細胞を含む様々な組織への発生と分化のメカニズム(3)小型霊長類コモンマーモセットに対する実験ツールの開発
	大石 久史教授	
	薬理学	イオンチャネル(特に、カリウムチャネル)を免疫系疾患、炎症性疾患、癌、骨疾患の創薬標的分子として捉え、次のような研究を行っている。①炎症性疾患、癌、骨疾患の発症、進展におけるイオンチャネルの病態生理学的役割の解明、②イオンチャネル活性制御にかかわる新規メカニズムの同定と創薬標的分子の探索、③イオンチャネル作用薬の創薬研究
	大矢 進教授	
	細菌学	A群レンサ球菌などの病原細菌の感染症発症のメカニズム、細菌毒素蛋白質の機能・発現機構の解析、重症細菌感染症に対する新たな治療法の開発
	長谷川忠男教授	
免疫学	(1)樹状細胞、制御性T細胞を利用した免疫系の特異的制御法の研究(2)(1)を利用した細胞療法の開発(3)免疫寛容解除を利用した癌や感染症への免疫誘導の研究(4)新規分子標的免疫療法の開発	
山崎小百合教授		
ウイルス学	①肝炎ウイルス感染に対する応答性(発症感受性及び重症化)や薬剤応答性の個人差に関わるヒト及びウイルス両方の遺伝要因の同定。②ゲノムワイド関連解析、オミックス解析を用いた新規バイオマーカー探索。③B型肝炎創薬研究:免疫療法含む新規治療法の開発。④ヒトおよび動物インフルエンザウイルスに対する受容体結合阻害剤の論理的創薬。	
田中靖人教授		
社会復帰医学	整形外科学	1)腰部脊柱管狭窄症における黄色靭帯の変性メカニズム、2)高悪性軟部腫瘍に対する温熱放射線化学療法、3)小児股関節疾患の病態、4)人工神経による末梢神経の再生、5)前十字靭帯(ACL)不全膝、並びにACL再建膝の動態、6)関節リウマチ(RA)発症機序、7)RAの薬物療法や手術療法による治療効果、8)肩肘投球障害に関する基礎および臨床研究、9)外傷性骨軟骨欠損に対する再生医療、10)大腿骨頭壊死の病態解明とそれに基づく治療法の開発
	村上英樹教授	
	精神・認知・行動医学	不安障害・心的外傷後ストレス障害・気分障害・身体疾患患者の認知行動療法・対人関係療法、コンサルテーションリエゾン精神医学・精神腫瘍学、気分障害・統合失調症の家族介入・家族心理教育、認知症の高次脳機能研究、精神疾患の病態解明のための脳画像研究、発達障害・不登校児童・家族のQOL向上および介入方法の開発、てんかん学・睡眠学・精神生理学、気分障害に対する臨床精神薬理学的研究など
	明智龍男教授	
	精神腫瘍学	がん患者における身体症状・精神症状緩和に資する研究、進行がん患者における病状悪化に備えた事前意思決定に関する研究、がん患者・家族とのコミュニケーションに関する研究、看護師・精神科医協働ケアの有用性に関する研究、がん患者における意思決定能力の評価・対応に関する研究、高齢者総合的機能評価に関する研究、小児がん患者の家族支援に関する研究、がん医療に従事する医療スタッフの教育システムの開発研究など
	明智龍男教授 (連携大学院)	
脳神経外科学	虚血性脳血管障害の外科、脳損傷修復の分子機構、クモ膜下出血、水頭症、頭蓋内圧亢進の病態に関する分子生物学的研究、頭蓋底外科、定位脳手術、脳血管内手術の手法開発、パーキンソン病に対する外科療法の開発、びまん性脳損傷の病態解析と治療法の開発、幹細胞移植による神経機能回復法の開発、手術支援画像技術の開発、新しい機能的脳外科手術の開発導入	
間瀬光人教授		
リハビリテーション医学	①非侵襲的計測法を用いた運動・認知機能評価、ニューロリハビリテーションの開発、②股関節症術後の装着型サイボーグを用いた新規リハビリテーションシステムの開発 ③パーキンソン病関連疾患におけるclosed loop stimulationを用いた新規歩行リハビリテーション法の開発 ④AIを用いたリハビリテーション効果の予測・最適化 ⑤神経難病のリハビリテーション現状における全国調査	
植木美乃教授		
生殖・遺伝医学	産科婦人科学	不育症病態解明、着床前診断、出生前診断胎児治療、周産期医学、生殖免疫、生殖補助技術、生殖器腫瘍発生機序、遺伝カウセリング、エコロジー&チルドレンバースコホート研究
	杉浦真弓教授	
新生児・小児医学	新生児中枢神経障害の成因解明と新しい治療法の開発、新しい新生児呼吸循環管理法、小児内分泌疾患の診断と治療、先天性心疾患の包括的管理、小児悪性腫瘍の診断と治療、小児肝疾患の発症機構、小児神経疾患の原因と病態解明、ゲノム医学を用いた小児疾患の病態解明、再生医療の小児医療への応用、発達障害の評価と介入方法の開発	
齋藤伸治教授		

【生体防御・総合医学専攻】

講座名	専門分野名	研究内容
	担当教員名	
分子医学	認知症科学	認知症・アルツハイマー病の病態形成の分子機構の解明と予防・治療法の開発を目指して、病態モデルマウスを用いた生化学的・病理的・行動学的薬理学的手法を中心に研究を展開している。特に、神経-グリア関連に着目した細胞病態機構の解明、再生医療の小児医療への応用発達障害の評価と介入方法の開発
	齊藤貴志教授	
	グリア細胞生物学	神経機能発現におけるニューロン・アストロサイト相関、アストロサイト機能分子の発現機構、アストロサイト由来神経栄養因子による神経再生の分子機構に関する研究および中枢神経疾患治療薬の脳内移送法の開発
	浅井清文教授	
	神経発達症遺伝学	神経発達障害には、遺伝子の異常の寄与が大きいことがこれまでの研究によって明らかにされ、多くの原因遺伝子が同定されてきています。我々のグループでは、発達障害や知的障害、更にはそれに合併するてんかんの発症に関わる複数の原因遺伝子の同定、更にはモデル動物の作成や、それを用いた発症機序の解明を進めてきました。現在、これらの知見に基づき、遺伝子治療法を含め、全く新規で真に有効な治療法の開発を目指し、日々研究を進めています。
	山川和弘教授	
	神経毒性学	(1)リスクアセスメント: ナノサイズ粒子の肺傷害性に関する組織学的検証(悪性中皮腫、肺胞上皮および胸膜過形成、炎症)、分子レベルでの機序解析(サイトカイン、がん関連遺伝子)、食品の安全性評価、(2)ドラッグディスカバリー: 毒性軽減を目指した抗がん物質の分子設計およびインシリコ標的分子解析、構造活性相関(QSAR)、機序解析(転写因子、血管新生)、天然医薬品資源学、(3)アニマルモデル: ヒトへの外挿モデルとしての発がん動物試験開発と有用性評価
	酒々井眞澄教授	
	神経発達・再生医学	中枢神経系の発生・再生のメカニズム解明と再生医療への応用をめざして、成体脳における神経幹細胞の増殖・分化と新生神経細胞の移動・成熟機構を中心に、齧歯類と霊長類、正常動物と疾患モデルを比較しながら研究する
	澤本和延教授	
生体総合医療学	消化器・代謝内科学	1. 消化器癌の新規診断、治療マーカーの探索、2. 消化管癌に対する光線力学診断法、治療法の開発、3. 炎症性腸疾患の新規薬物療法の開発、4. IgG4関連疾患や自己免疫性膵炎に対する新規診断・治療法の開発、5. 悪性胆道や消化管狭窄に対する金属ステント治療法の確立と力学的観点を含む集学的検討、6. 非アルコール性脂肪肝炎治療法の開発、7. 肝発癌抑制のための治療法の開発、8. ウイルス肝炎におけるウイルス・ヒトゲノム解析、9. 糖尿病・脂質異常症・肥満症・内分泌疾患の病因病態の解明と新規治療標的分子の探索
	片岡洋望教授	
	呼吸器・免疫アレルギー内科学	・慢性気道疾患(喘息、慢性咳嗽、COPD、慢性気道感染症)の疫学、疾患概念、遺伝子を含む病態解析、CT画像解析、診断、治療 ・肺癌の分子病態・抗癌剤感受性/反応性・多施設大規模試験 ・呼吸器感染症(非結核性抗酸菌症、肺炎など)の疫学、病態、CT画像解析、診断、治療
	新実彰男教授	・間質性肺疾患の病態・画像解析と治療 ・呼吸器症状(特に咳)と胃食道逆流症の関連 ・各種膠原病の新規自己抗原分子の同定、臨床検体を用いた病態解析・診断・治療法の開発
	循環器内科学	循環器病の病態生理の解明、循環器病治療における先端医療技術の開発、生活習慣病としての循環器病制圧策、拡張不全の機序解明と治療法開発、虚血性心疾患の発症機序解明と予防法、高血圧の腎性機序の解明、血管内皮機能障害と心血管事故の解析、血圧日内リズムを考慮した高血圧治療の考案、腎不全の進行抑制対策の開発
	大手信之教授	
	神経内科学	脳血管障害、神経難病疾患の臨床的病態研究、神経変性疾患のモデル動物作成法の開発、神経難病の遺伝子治療法の開発、記憶と想起のメカニズムの解明、アルツハイマー病と血管性痴呆における分子生物学的発症機序の解明と治療法の開発
	松川則之教授	
	地域医療教育学	教育的な総合診療チームによる教育手法とそのシステムの確立、シミュレーターを用いた教育法の研究。効率的な総合医療教育の確立、地域医療における医療ネットワークの有用性に関する調査、地域医療連携による効果的で効率的な予防医学の確立
	大原弘隆教授	
麻酔科学・集中治療医学	脳における水チャネル<アクアポリン>の機能解析、急性肺障害におけるアクアポリンの機能、呼吸循環相関に関する研究、二酸化炭素が肺に与える影響に関する研究、新規心肺出量測定法の開発、一酸化中毒への呼吸循環の関与、急性肺障害予測因子の検索、疼痛発症機序の解明と対策、カプサイシンレセプターの機能解析と疼痛への関与、重症患者に対する栄養管理に関する基礎的研究、新規免疫調整栄養剤の開発と臨床応用、麻酔薬が高次脳機能に与える影響の検討、敗血症による中枢神経障害の発症機序解明	
祖父江和哉教授		
放射線医学	放射線学的病理学的相関および力学的画像読影法、悪性腫瘍の放射線・化学療法の基礎的臨床的研究と新しい治療法の開発、臨床核医学診断とその方法論	
芝本雄太教授		
血液・腫瘍内科学	①造血器腫瘍を中心とした癌の分子病態解析、新規治療標的分子の同定、分子標的薬の効果と毒性を予測するバイオマーカー研究、薬剤耐性化機序の解明とその克服に関する研究、②抗体療法や細胞傷害性T細胞(CTL)療法を中心とする新たながん免疫療法の開発研究、③がん薬物療法の臨床試験、臨床治験の計画・実施によるエビデンスの創出	
飯田真介教授		

【生体防御・総合医学専攻】

講座名	専門分野名	研究内容
	担当教員名	
生体総合医療学	臨床薬理学	男性性機能障害に関する基礎的および臨床的研究、排尿機能障害におけるNOS(NO合成酵素)の役割、慢性腎臓病(CKD)における血管内皮機能障害に関する研究、有機酸代謝異常症等患者におけるアシルカルニチン代謝に関する研究
	木村和哲教授	
	先進急性期医療学	(笹野寛教授)呼吸・循環連携(心拍・血流変動解析、呼吸性動性不整脈の生理)、臨床デバイスの開発(超音波ガイド下穿刺法、酸素投与法)、末梢静脈挿入型中心静脈カテーテル、医学シミュレーション教育
	笹野寛教授	
	服部友紀教授	
	松嶋麻子教授	
	感染制御機能学	肝炎ウイルス培養系の確立、肝炎ウイルスの病原性発現機構・感染増殖複製機構の解析、肝炎ウイルスに対する新規抗ウイルス標的の探索・新規抗ウイルス薬のスクリーニングと抗ウイルス機構の解析・薬剤耐性ウイルスの解析、肝炎ウイルスと相関する宿主因子の探索
	脇田隆字客員教授	
	(連携大学院)	
	肝炎・免疫学	各種病原体の遺伝子変異の分子進化的解析とその臨床への応用ー特に各種肝炎ウイルスの遺伝子変異と病態との関連および治療への応用ー
溝上雅史客員教授		
(連携大学院)		

【環境・公衆衛生学専攻】

講座名	専門分野名	研究内容
	担当教員名	
医学教育・社会医学	環境労働衛生学	(1)環境化学物質(殺虫剤およびその他の有機化学物質)による健康障害の病態・機序・曝露と影響の量反応関係・曝露実態の解明に関する実験研究および環境疫学研究 (2)作業関連疾患の要因究明に関する人間工学研究、ビッグデータ解析・ライフログ解析の産業保健応用、医療安全文化と組織レジリエンス
	上島通浩教授	
	公衆衛生学	がんやメタボリックシンドロームなどの生活習慣病・健康・QOL・総死亡などに関連する要因(生活習慣、生育歴、心理社会的要因、遺伝子多型など、要因間の交互作用も含む)の種々の疫学研究による探索と評価、診断・検査法の評価と比較、臨床疫学、難病の記述疫学
	鈴木貞夫教授	
	法医学	DNA多型・法医学遺伝学、画像解析技術の法病理学的・法医学人類学的応用
	青木康博教授	
	医学・医療教育学	次世代医療としての疾患の発症予測と制御、日常生活下生体情報の無意識記録と大規模データベースの構築、心拍のゆらぎ解析を中心とする循環器疾患の予後や突然死の予測、睡眠呼吸障害の検出、ストレスや疲労の評価のための機器およびソフトウェアの開発のための企業との共同研究
	早野順一郎教授	
次世代医療開発学	①消化管疾患に対する臨床、治療評価法の確立 ②胃食道逆流症の病態、疫学に関する研究 ③機能的消化管障害(機能的ディスぺプシア、過敏性腸症候群)の新規治療法の開発 ④消化管内臓知覚のメカニズムに関する基礎的研究 ⑤臨床試験方法論と臨床薬理学	
神谷武教授		

新型コロナウイルス感染症の状況により、今後、入学者選抜期日及び方法が変更される場合がありますので、本学ウェブサイト「大学院入試に関するお知らせ」のページを随時ご確認ください。

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/admissions/graduate/information/index.html>

